



和田勇氏を紹介する紙芝居の原画と手掛けた日高高生ら（御坊市役所で）

和田勇氏 たたえる紙芝居

原画完成 イベントに活用へ

御坊市名誉市民で、1964年の東京五輪招致に貢献した和田勇氏の足跡を紹介する紙芝居の原画が完成した。「和田勇顕彰会」が企画し、地元の県立日高高校JRC（青少年赤十字）部が手掛けたもので、原画から20部を印刷し、市内の幼稚園・保育所に配るほか、イベントなどに活用していくという。

和田氏は日系2世の米国人実業家。自費で中南米諸

国を回って支持を取り付けるなど誘致に大きく貢献し、「東京五輪の恩人」と呼ばれた。幼少期の5年間を両親の古里の御坊市や由良町で過ごしたことから、2004年に名誉市民第1号に選ばれている。

紙芝居制作は、「幼い頃から、御坊の偉人を知ってもらおう」と、商工会議所や市などでつくる顕彰会が企画。ボランティア活動などに取り組み、県教委の「手

づくり紙芝居コンクール」で入賞経験もある同部に原画の制作を依頼した。

同部では12人が昨秋から構想を練り、▽米国の親元を離れ、御坊で地引き網を手伝う場面▽誘致の決め手となった中南米諸国への支持取り付けに駆け回るシーン▽開会式での日本選手団の行進の様子——などを水彩絵の具などで「子どもに親しまれる優しい筆致の絵」に仕上げた。

原画の贈呈式が3月下旬に御坊市役所であり、出席した玉置朝花さん(17)は「日米の懸け橋になった偉人。紙芝居で思いが伝われば」などと話していた。